

耳石解析による 2023 年生まれアユのふ化日組成

佐々木 賀 治

1. 目 的

アユのふ化時期の早晩は、アユのその後の成長および漁獲状況に関係することが知られている。そこで今後の漁況予報の参考とする目的で、ヒウオ生息状況調査で採捕した 2023 年生まれのアユのふ化日組成図を作成し、ふ化時期の特徴の把握を試みた。

2. 方 法

耳石解析に用いたヒウオは、2023 年 9 月 28 日から 12 月 14 日にかけて船木崎から当场にかけての 4 水域（図 1 の実線部分）で、ヒウオ生息状況調査と同様の手法で採捕した。曳網深度は各水域 8m とし、中央付近の 2 水域では深度 18m でも実施した。採捕したヒウオは 1 曳網 30 尾以上採捕された場合は 30 尾を上限に、全 202 個体から耳石を摘出し、耳石解析装置(ARP/W+RI:ラトックシステムエンジニアリング社製)を用いて日輪数(図 2)を計数することでふ化日を求めた。30 尾以上採捕され

た場合は耳石解析で得られたふ化日頻度を全採捕尾数で補正し、ふ化日組成図を作成した。

3. 結 果

ヒウオ曳調査では 9 月 5 日から 11 月 10 日にふ化したヒウオが採捕された。2023 年生まれのアユのふ化日のピークは9月中旬から10月上旬となり、とくに 9 月 20 日または 10 月 1 日前後にふ化した個体が多かった。また、10 月下旬以降にふ化した個体は少なかった（図 3）。

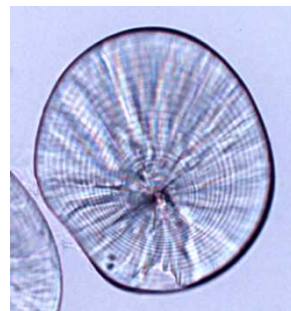


図 1 サプリング水域図 図 2 アユ耳石顕微鏡写真

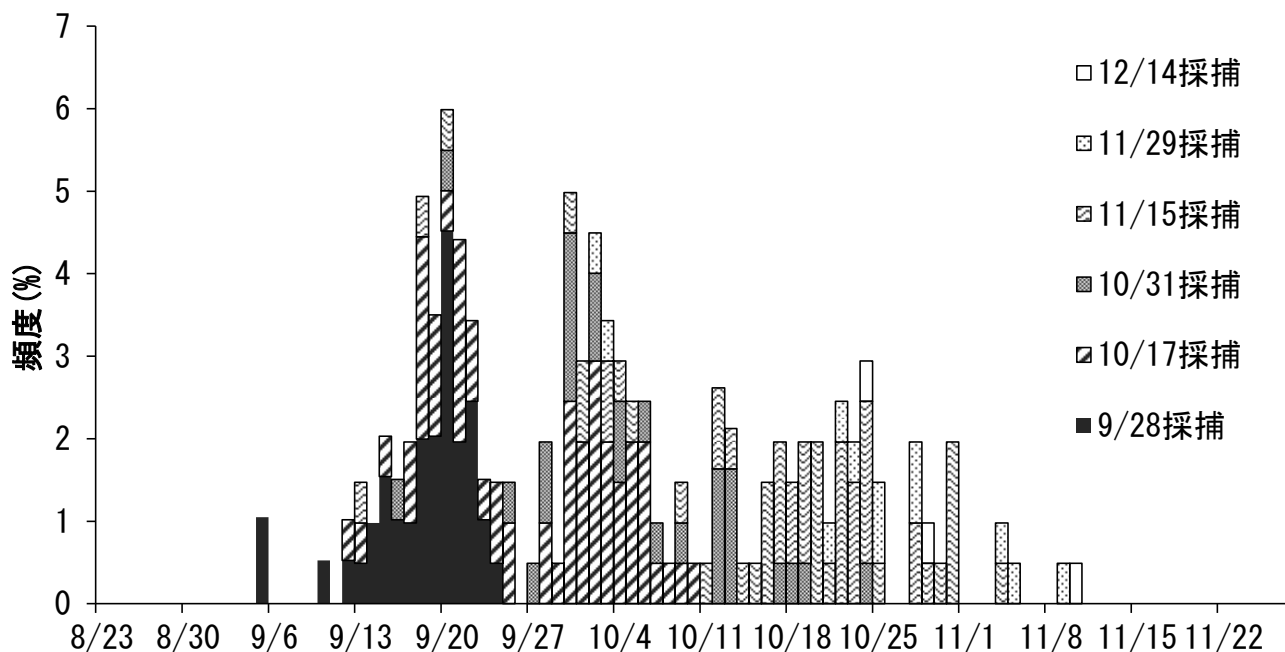


図 3 2023 年生まれアユのふ化日組成図